

外来種が
荒川の自然を壊す！



外来種ってなに？

外来種とは、その種がもともと持っている移動能力をはるかに超えて、飛行機や船、自動車など人によって移動させられ、その地で繁殖し始めてしまった生きもののことです。

今、日本で確認されている外来種は動物600種以上、植物を含めると2,000種以上にものほります。いったん入り込んでしまった外来種を取りのぞくことは簡単ではありません。荒川でもたくさんの外来種が確認され、荒川の在来の動植物や自然に大きな影響を及ぼしています。

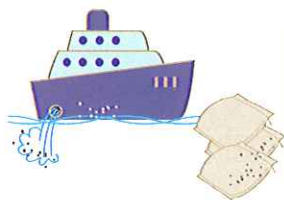
外来種は、移入種や帰化種とも呼ばれています。

どうやって来たの？



●ベットや食用、レジャーなどを目的に輸入される

アカミミガメ（120頁）はベット用に、ウシガエル（116頁）などは食用として、オオクチバス（ブラックバス）などは釣りなどのレジャーを目的として日本に持ち込まれました。



●輸入された穀物・船・人など他のものにくっついて来る

フタクサハムシ（272頁）やイネミスソウムシなどは、輸入される穀物や干し草、その袋などにまぎれ込んでやって来たと考えられています。



●放されたり、捨てられれたりしている

海外の動物のほが、イタチ（32頁）やゲンゴロウフナ（ヘラブナ）など国内の種類でも本来その場所にすていない動物が害獣駆除やレジャーなどを目的として放されています。

なにがいけないの？



©(財)日本生態系協会

●地域の自然生態系が壊れる！

外来種が地域の自然環境に入り込むと、在来種（その地域にもともといる野生の生きもの）を食べたり、そのすみかやえさを奪ったりし、種類によっては地域の自然生態系に深刻な影響を与えます。外来種がはびこることによって、もともとの地域の自然生態系が変化してしまいます。

もともと地域にあった自然が失われるということは、私たちの生活の土台が失われることになるのです。

●遺伝子の多様性が失われる

生きものは、その地域の何万年という歴史を刻み込んだ遺伝子を持っています。外来種の種類によっては、地域の生きものと交雑できる種があります（クワガタなど）。交雑によってその遺伝子が失われることとなります。

●在来種が食べられる

オオクチバス（ブラックバス）などの外来魚、ウシガエル（116頁）などは、小さな昆虫から小動物にいたるまでなんでもどん欲に食べるため、在来種が激減しています。

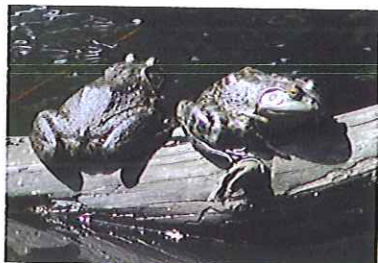
●在来種のえさやすみが奪われる

外来種と在来種の間で、えさやすみをめぐる競争が起こります。アカミミガメは、在来種のイシガメやクサガメとえさやすみが似ている他、在来種よりも産卵回数が多く、体も大きいいため、在来種を追いやってしまいます。

●寄生虫や病原菌が持ち込まれる

外来種と一緒に寄生虫が持ち込まれ、在来種に悪影響を与えます。セイヨウオオマルハナバチによって持ち込まれた寄生性のダニは在来種のマルハナバチにも寄生します。

荒川で見られる外来種



ウシガエル (116頁)



アカミミガメ (120頁)



フタクサハムシ (272頁)



アオマツムシ (211頁)



ヌートリア

南米原産の大型ネズミ類で、体長70cm、尾長50cmにもなる。水辺で生活する。国内では岐阜県や岡山県などで野生化し、イネや根菜類などへの被害が大きい。数年前から入間川などで確認されており、荒川流域での増加が懸念されている。



セイヨウオオマルハナバチ

ヨーロッパ原産で日本には1991年に温室トマトの花粉を運ぶ昆虫として持ち込まれた。1996年に北海道で野生化、近年荒川流域でも見つかっている。トラマルハナバチなど外来種との競合が懸念されている。

どうすればいいの？



●こまめに取りのぞく！

外来種を見つけたら取りのぞいてください。外来種そのものに罪はありませんが、これ以上放っておくと在来種の絶滅も心配される事態となっています。外来種を積極的に管理・処分する必要がある生じています。

もともとの地域の自然を取り戻すため、次のことを守ってください。

●持ち込まない！捨てない！飼わない！

- 野生の生きものは地域を越えて動かさない
ちがう地域の生きものを放流しない

たとえ同じ種類であっても地域によってちがった遺伝子を持っています。メダカやホタルなども他の地域のを放流してはいけません。

土の中にもたくさん生きものがくらしています。土、また植物も他の地域のを持ち込んではいけません。

- ベットは絶対に野外に捨てない

ベットを飼う場合は、必ず最後まで責任を持って飼育してください。捨てられたベットが野生化し、在来種をおひやかすことがあります。



ブルーギル

北アメリカ原産の肉食魚。在来種の魚や水生昆虫を食べること、繁殖力が旺盛なことが生態系のバランスを大きく崩す原因とされている。オオクチバス（ブラックバス）やコクチバスとともに荒川の自然に大きな悪影響を与えている。



アメリカザリガニ

北アメリカ原産で日本にはウシガエルのえさとして持ち込まれ、野生化した。雑食性で他の水生生物や水草に害を及ぼす。荒川では旧流路など流れのない水辺にきわめて多く生活している。水田ではあげに穴をあけるなどの被害も出る。

は 乳類

アカネズミ	28
アズマモグラ	25
イタチ	32, 33
カヤネズミ	29
キツネ	31, 33
ジネズミ	24
タヌキ	30, 33
ヌートリア	294
ノウサギ	26, 33
ハタネズミ	27

鳥 類

アオアシシギ	72
アオサギ	50
アオジ	94, 105
アカゲラ	78
アマサギ	46, 103
イカルチドリ	69
イソシギ	72
ウグイス	88
オオタカ	60
オオヨシキリ	89, 36
オナガガモ	55
カイツブリ	42
カシラダカ	93, 105
カルガモ	53
カワウ	43
カワセミ	77, 36
カワラヒワ	95
キジ	64
キジバト	75
キンクロハジロ	58
クイナ	65
クサシギ	71
コアジサシ	74, 12
ゴイサギ	45
コガモ	54

コゲラ	79
コサギ	49, 103
コチドリ	68
コハクチョウ	51, 36
コミミズク	76, 36
サシバ	62, 12
サンコウチョウ	12
シジュウカラ	91
シメ	97
ジョウビタキ	86
スズメ	98
セグロセキレイ	83
セッカ	90
ダイサギ	47, 102
タカブシギ	72
タゲリ	70
タンギ	73
タマシギ	12
チュウサギ	48, 103
チュウシャクシギ	72
チョウゲンボウ	63
ツグミ	87
ツバメ	81
ノスリ	61
ハクセキレイ	82
ハシビロガモ	56
ハシトガラス	101
ハシボソガラス	100
バン	66
ヒクイナ	12
ヒバリ	80
ヒヨドリ	84
ベニマシコ	96
ホオジロ	92, 104
ホシハジロ	57
マガモ	52
ミコアイサ	59
ミヤマホオジロ	105

ムクドリ	99	アサマイチモンジ	157, 156
ムナグロ	67, 12	アジアイトトンボ	171
メジロ	88	アメンボ	233
モズ	85	イチモンジセセリ	162
ヨシゴイ	44	イチモンジチョウ	156
		ウスイロササキリ	216
		ウスバカマキリ	229
		ウスバキトンボ	184
		ウチワヤンマ	174
		ウラゴマダラシジミ	151
		ウリハムシ	271
		エサキアメンボ	235
		エゾツクムシ	214
		エリザハンミョウ	245
		エンマコオロギ	207, 205
		オオアトボシアオゴミムシ	249
		オオイトトンボ	170
		オオウンモンクチバ	168
		オオカマキリ	232, 288
		オオキンナガゴミムシ	247
		オオスズメバチ	198, 287
		オオトリノフンダマシ	281
		オオニジュウヤホシテントウ	264
		オオハサミムシ	227
		オオハナアブ	204
		オオヒラタシデムシ	250
		オオボクトウ	252
		オオミズアオ	166
		オオムラサキ	12, 155, 285
		オオモンツチバチ	194
		オジロアシナガゾウムシ	277
		オナガササキリ	216
		オニヤンマ	177
		オバボタル	258
		オンパバッタ	219
		カツオゾウムシ	276
		カトリヤンマ	179
		カバキコマチグモ	282
両生・は虫類			
アズマヒキガエル	112, 129		
アオダイショウ	124		
アカミミガメ	120, 294		
アマガエル	113, 129, 130		
イシガメ	121, 131		
ウシガエル	116, 294		
カナヘビ	122		
クサガメ	119, 131		
シマヘビ	123		
シュレーゲルアオガエル	118, 108, 128, 130		
ツチガエル	117		
トウキョウダルマガエル	115, 128		
トノサマガエル	115		
ニホンアカガエル	114, 108, 129		
ヒバカリ	125		
マムシ	127		
ヤマカガシ	126		
昆虫・クモ類			
アオオサムシ	246		
アオオビハエトリ	283		
アオゴミムシ	249		
アオサナエ	175		
アオハダトンボ	172		
アオマツムシ	211, 294		
アオムシコマユバチ	145		
アオメアブ	202		
アオモンイトトンボ	171		
アオヤンマ	177		
アカスジキンカメムシ	242		
アキアカネ	188, 290		

さくいん

カブトムシ	255	ゴマダラチョウ	155, 285
カメノコハムシ	274	ゴミグモ	283
カラスハエトリ	283	コムシジ	158
カワラバツタ	224, 134	コムラサキ	153
カンタン	213	コヤマトンボ	180
キアゲハ	141	サクラコガネ	253
キアシナガバチ	196	シオカラトンボ	183
キイロサナエ	173	シオヤアブ	202
キイロスズメバチ	199, 286	シブイロカヤキリモドキ	217
キタテハ	159	シマアシトハナアブ	203
キチョウ	144, 151	シマアメンボ	235
キバネツノトンボ	191	シマハナアブ	203
キボシカミキリ	267	ジャコウアゲハ	140
キリギリス	215	ジュウクホシテントウ	263
ギンイチモンジセセリ	161, 151	ジュウサンホシテントウ	263
ギンツバメ	165	ジュウジナガカメムシ	237
キンナガゴミムシ	247	ジュンサイハムシ	236
キンヒバリ	209	ショウジョウトンボ	181
ギンヤンマ	178	ショウリョウバッタ	220, 231
クサキリ	218	ショウリョウバッタモドキ	221
クビキリギス	217, 218	ジョロウグモ	282
クルマバッタ	225	シロオビノメイガ	164
クルマバッタモドキ	225	シロスジカミキリ	252
クロイトトンボ	169	シロヘリクチブトカメムシ	244
クロウリハムシ	271	シロヘリツチカメムシ	241
クワカミキリ	268	ジンガサハムシ	273
コオニヤンマ	176	スジグロシロチョウ	145
コガタスズメバチ	287	スズムシ	210
コガタリハムシ	270	セアカヒラタゴミムシ	248
コガネグモ	278	セイヨウオオマルハナバチ	294
コガネムシ	253	セイヨウミツバチ	200
コカマキリ	230, 289	セグロアシナガバチ	196
コクワガタ	251	セグロバッタ	223
コシアキトンボ	185	セスジイトトンボ	170
コニワハンミョウ	245	チュウガタコガネグモ	279
コバネイナゴ	222	チョウセンカマキリ	231, 288
コバネササキリ	216	チョウトンボ	186
コフキトンボ	182	ツツレサセコオロギ	208, 205

ツノトンボ	191	ヒメズメバチ	287
ツバメシジミ	148	ヒメナガメ	243
ツマキチョウ	142	ヒメピロウドカミキリ	266
ツクムシ	214	ブタクサハムシ	272, 294
ドウガネブイブイ	253	フタホシテントウ	263
トノサマバッタ	226	フタモンアシナガバチ	195
トホシクビボソハムシ	269	ヘイケボタル	257, 134, 258
トホシテントウ	264	ベニシジミ	150
ドヨウオニグモ	280	ホシホウジャク	167
トラマルハナバチ	201	ホソオビアシブトクチバ	168
トリノフンダマシ	281	ホソハリカメムシ	239
ナガコガネグモ	279, 184	ホソヘリカメムシ	238
ナガメ	243	マクガタテントウ	262
ナツアカネ	187, 290	マツムシ	212
ナナホシテントウ	260	マメコガネ	254
ナミアゲハ	141	マメハンミョウ	265
ナミテントウ	259	マルカメムシ	240
ニジュウヤホシテントウ	263	ミツカドコオロギ	206, 205
ニホンミツバチ	200	ミドリシジミ	152, 134, 284
ネコハエトリ	283	ミヤマアカネ	190
ノコギリクワガタ	252	ミヤマシジミ	149
ノシメトンボ	189	ミヤマチャバネセセリ	163
ハグロトンボ	172	モリオカメコオロギ	205
ハグロハバチ	193	モンキチョウ	143
ハスジカツオソウムシ	276	モンシロチョウ	146
ハナアブ	203	モンズメバチ	197, 286
ハナグモ	283	ヤマトシジミ	147
ハネナシアメンボ	236	ヤマトシリアゲ	192
ハネナガイナゴ	222	ヤマトタマムシ	256
ハラオカメコオロギ	205	ワカバグモ	283
ハラビロカマキリ	228, 289		
ハリカメムシ	239	その他	
ヒメアカタテハ	154	アメリカザリガニ	295
ヒメアメンボ	234	ブルーギル	
ヒメウラナミジャノメ	160		
ヒメカメノコテントウ	261		
ヒメクビグロクチバ	168		
ヒメクロオトシブミ	275		

黒字で示した数字：図鑑頁で解説されている頁

青字で示した数字：参照として掲載されている頁

写真

五十嵐貴大

内田博

笠原啓一

野澤裕司

橋口柱二

松本嘉通

水村実

峰島敬治

(財) 埼玉県生態系保護協会 ©

イラストレーション

瀬下雄高

トミタ・イチロー

西岡聖子

(財) 埼玉県生態系保護協会

主な参考文献

石井実・大谷剛・常喜豊 (編) 「日本動物大百科8 昆虫」平凡社1996年/石井実・大谷剛・常喜豊 (編) 「日本動物大百科9 昆虫」平凡社1997年/石井実・大谷剛・常喜豊 (編) 「日本動物大百科10 昆虫」平凡社1998年/石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」東海大学出版会1988年/伊藤年一 (編) 「学研中高中生図鑑 昆虫」学習研究社1983年/伊藤年一 (編) 「学研中高中生図鑑 昆虫」学習研究社1983年/尾崎輝雄・長谷川雅美 (編) 「カエルのきもち」千葉県立中央博物館1999年/環境庁自然保護局野生生物課 (編) 「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」財団法人 自然環境研究センター2000年/栗林慧・大谷剛「名前といわれ昆虫図鑑」倍成社1987年/埼玉環境防災部みどり自然課「改訂 埼玉県レッドデータブック2002動物編」2002年/菅原浩・特澤亮三「図説日本鳥名由来辞典」柏書房1993年/千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 「日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類」平凡社1996年/福田晴夫ほか「原色日本蝶類生態図鑑I」保育社1982年/福田晴夫ほか「原色日本蝶類生態図鑑II」保育社1983年/福田晴夫ほか「原色日本蝶類生態図鑑III」保育社1984年/福田晴夫ほか「原色日本蝶類生態図鑑IV」保育社1984年/松浦一郎「鳴く虫の博物誌」文一総合出版1989年/安永智秀・高井幹男・山下泉・川村満・川澤賢夫「日本原色カメムシ図鑑」全国農村教育協会1993年

荒川の自然図鑑 荒川の動物

発行 2004年3月

国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12

TEL 049-246-6360

E-mail arajo@ktr.mlit.go.jp

URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>

制作：財団法人 埼玉県生態系保護協会

〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町1-103-1YKビル5F

TEL 048-645-0570 FAX 048-647-1500

(この冊子の印刷・製本には、一部
あたり2,500円かかっています)

